

全国学力・学習状況調査等の結果と指導改善内容について

4 月に 6 年生を対象として、全国学力・学習状況調査が実施されました。本年度は、学力調査として国語・算数の 2 教科、学習状況調査として例年通り児童質問紙による調査が行われ、7 月末に結果が公表されました。また、4・5 年生では「みえスタディチェック」、3 年生では「標準学力検査 (NRT)」を実施しました。対象学年の児童には、個人票 (調査結果) を渡しました。それを見て、自分の強みを伸ばすとともに、苦手な所を克服できるように取り組んでほしいと思います。学校でも結果を分析し、今後の取組に活かしていきます。

ここでは、学校全体の結果の分析 (強み⇒◎、弱み⇒△) と、今後の取組をお知らせします。

全国学力・学習状況調査(6年)の結果より

国語は、全国平均並みで、算数は、少し上回っている。全体的に学力の 2 極化が見られる。

【国語】

- ◎設問 1－三「漢字を使って正しく書き直す」、設問 2－三「情報と情報との関係づけの仕方・表し方」などがよくできており、知識・技能としての「基礎的・基本的な学習」は定着している。
- ◎設問 1－二「自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」、設問 2－三「中心となる語や文を見付けて要約する」などがよくできている。
- △設問 3－一、二「インタビューの様子について、質問した理由として適切なものを選択する」ことが難しかった。「話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること」に課題がある。

【算数】

- ◎設問 2－(1)(2)「四角形の意味や性質」、設問 4－(1)「百分率で表された割合」、設問 4－(2)「『以上』の意味を理解し示された表から必要な数を読み取る」など、知識・技能としての「基礎的・基本的な学習」は定着している。
- △設問 1－(3)「求め方と答えを書く」、設問 2－(4)「選んだわけを書く」、設問 3－(4)「説明した図を基に意味を考えて式を選ぶ」など、数・式・言葉で考え方を論理的に説明することに課題がある。

みえスタディ・チェック(4・5年)の結果より

国語・算数・理科(5 年のみ)ともに、市平均正答率を上回っている。また、学力の 2 極化が見られる。

【国語】

≪4・5 年≫

- ◎漢字を正しく書く、ローマ字で書く、主語と述語の関係をとらえる、など基礎的・基本的な知識・技能は身についている。

≪4 年≫

- △段落の相互関係を理解し、叙述を基にとらえたり、文章の構造を把握したりすることに課題がある。

≪5 年≫

- △接続語を使って内容を分けて書く、目的に応じて調べたことを整理する、具体的な事例を挙げて説明する文章を書くなど、文章を読み取ったり書いたりすることに課題がある。

【算数】

≪4 年・5 年≫

- ◎乗法・除法の計算、概数(5 年)などの基礎的・基本的な知識・技能は身についている。

≪4 年≫

- △棒グラフの目盛りに着目して、必要な数値や差を読み取ることに課題がある。

≪5 年≫

- △図形の面積の求め方の説明を記述することに課題がある。

【理科】(5 年のみ)

◎実験・観察の技能やそこから得られる知識が身についている。

△問いの中にある、複数の事項を理解し、活用して解答することに課題がある。

児童・生徒質問紙(6年)からみられる特徴について(学習、生活の状況に関して)

◎「毎日、朝食を食べている。」「就寝・起床時刻が決まっている。」などの回答が全国平均を上回り、良好な生活を過ごしている子が多いことがわかる。

◎「自分にはよいところがある。」「先生はあなたのよいところを認めてくれている。」「将来の夢や目標を持っている。」についての回答が全国平均を上回り、自尊感情が高いことがわかる。

◎「いじめは、どんな理由があってもいけない。」「人の役に立つ人間になりたい。」という回答が全国平均を上回っている。

◎「学校に行くのは楽しい。」という回答が全国平均を少し下回るが、「友達関係に満足している。」「自分と違う意見について考えるのは楽しい。」「国語・算数・英語ともに、内容はよくわかる・将来役に立つ」という回答は多く、全国平均を上回っている。

◎「地域行事に良く参加している。」という回答が、全国平均を大きく上回っており、「ふれあいパスポート」の取組をはじめとする、子どもたちを地域で育てる土壤ができてきていることがわかる。

◎「家で自分で計画を立てて勉強している。」が全国平均より高い。

○家庭学習時間(塾含む)について、約半数の子が、平日 1 時間以上、2 時間より少ないを回答し、それ以上の子も全国平均よりも多い。休みの日は、4 割以上が 1 時間より少ない(全国平均を上回っている)、4 時間以上の回答が全国平均を上回っている。また、休みの日に学習を「全くしない」という回答は全国平均を下回っている。家庭学習の手引き等の配付により、習慣化されてきていると思われる。

調査結果をふまえた今後の取組について

1 指導の工夫・改善について

漢字や計算などの基礎的・基本的な学習の定着に向けた指導の重要性は変わりません。「強み」維持のため、今後も、朝の学習の時間を使った反復学習など継続して取り組みます。一方、「弱み」であった「長文を読み取る」「論理的に書く・説明するために書く」といった力を子どもが身につけ伸ばしていくためには、普段から「読む」「書く」学習を積み重ねていく必要があります。単に「読む」「書く」練習をするだけではなく、例えば、子どもが教科書の文章中にある文や言葉を根拠にして論理的に自分の考えを書いたり述べたりしながら、他者と交流する授業～主体的・対話的で協働的な学び～が必要です。再度、教職員の研修を深め、子どもたちに力がつくように取り組みます。

学力の2極化については、個に応じた指導・支援をしていけるよう丁寧に子どもたちにかかわって対応をしていきます。4年生以上の算数では引き続き習熟度別少人数授業やチームティーチング(T.T.)を行っていきます。

また、「子どもが自ら学習を調整する力」(「個別最適な学び」)を育てることも大事だと言われています。例えば、タブレットを使って、疑問に思ったら自分ですぐに調べる(インターネット)、自分の伝えたい方法で発表原稿の準備をする(写真、イラスト、動画)、自分で決めた課題に取り組む(苦手を克服、発展問題に挑戦する:ドリルパーク)などです。家庭学習でも活かしてほしいと思います。

これまでの調査から、子どもたちの自己有用感・自尊感情が高いと、学力向上につながるということがわかっています。とても頑張ったときやその結果だけ特別褒めるだけではなく、「今のいいね。」のように、今できていることを認める、「あなたのいいところは、〇〇だよ。」「〇〇してくれてありがとう。」などをこまめに伝えていきたいと思います。その上で、「がんばってよかった。」「やればできる。」という達成感を味わえるような場面をつくっていきます。

2 家庭学習について

学習の定着のためには、家庭学習の習慣化はとても大切です。年度初めに配付した「家庭学習の手引き」にもとづき、1学期同様「チャレンジ週間」を設定しながら、子どもが主体的に取り組めるようにしていきます。各ご家庭でも、家庭学習をする時間や場所などを決めて取り組むことや意欲喚起につながるような声掛けなど、ご支援ご協力をお願いします。